

# 矢作川流域圏懇談会通信

山部会編 vol. 1



発行日：平成 25 年 7 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

## ◆第9回山部会WGを開催しました！

6月29日（土曜日）に第9回山部会WGが開催され、H25年度のWGがスタートしました。

WGでは、今年度の活動計画として、今年度実施する4つの活動の内容と進め方について話し合いました。

日時：平成 25 年 6 月 29 日（土）9:00～14:00  
場所：根羽村老人福祉センター  
参加者：21 名（事務局含む）



## ◆主な会議内容

今年度以降の山部会運営方針 ～山部会でとりくむ 4 つのこと～



### 1. 山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集の作成は、矢作川流域の中山間地域振興に関わる団体・個人の活動情報を共有し、ネットワーク化を支援していくことを目的としています。



今回は、調査する活動団体（21 団体）と根羽村・恵那市・豊田市・岡崎市それぞれの担当者を決定しました。

### 2. 矢作川流域山村ミーティングについて

矢作川流域山村ミーティングは、流域圏全体で山村再生のアイデアについて話し合うことを目的にしています。



まずは恵南地域の山村で7月17日に開催予定の「いっぺん寄ってみよまいか～結の炭家でアイターンゆんたく」をきっかけに1ターン者同士の交流を通じて進めていきます。

### 3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

矢作川流域圏森づくりガイドラインは、流域圏の森の将来の姿と実現手段について提示することを目的としています。



ガイドラインの作成にあたり流域圏の森を構成する3県の関係課へ、座長と事務局でガイドラインの作成趣旨について説明に行くこととなりました。

### 4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

矢作川流域圏木づかいガイドラインは、矢作川流域圏の木材利用を住民・事業体・行政が一体となって推進するきっかけづくりを目的としています。ガイドラインは3カ年かけて策定することとし、まずはターゲットを明確にするためのアイデア出しについて、「ブレインストーミング方式」で実施することとなりました。



## ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。



## ◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

### ●山村再生担い手づくり事例集について

- 団体そのものよりも団体が取り組んでいる活動に着目することがよい。(丹羽)
- ヒアリング時には、団体が「どんな仲間を求めているのか」が分かるとよい。(今村)
- 団体の持つ悩みや課題に対し流域圏懇談会の参加者がどのように関わられるのかも重要。(今村)
  - ▶ 今回出された意見を踏まえ、7月に開催予定の次回WGで企画案を示す。(洲崎)



### より具体的に話し合う「事例集ワーキング」を同日午後を開催しました！

- 取材のとりまとめを行う団体が決まりました。
- 取材先団体にあわせ地域毎に担当者を決めました。(根羽村 南木氏、恵那市 丹羽氏、豊田市 洲崎氏、岡崎市 沖氏)
- 取材先団体は、根羽村3団体、恵那市3団体、豊田市12団体、岡崎市3団体の合計21団体としました。
- 取材先団体の選定は「なぜその団体なのか？」について情報共有するため推薦の言葉を考えることとしました。

### ●矢作川流域山村ミーティングについて

- ミーティングは、それぞれの森林組合が抱える悩みを全員で話し合うことを目的として行い、搬出時の課題や悩みを雑談形式でやることを考えている、人が集まるかが心配。(今村)
  - ▶ 作業員が出席するための理由付けが重要。(松井)
- 森林組合そのものは、人の問題というより森の問題に関係が深いので、ミーティングについては森林組合にこだわる必要はないのではないかと考えている。(蔵治)



### ●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- ガイドラインの検討体制として、関連する自治体の担当課に協力を要請したい。(蔵治)
  - ▶ 長野県森林政策課と林野庁に対しては、参加の呼びかけ・働きかけが可能。(今村)
- 県の担当課へ作成趣旨の説明に行くため、8月又は9月くらいから議論開始予定。(蔵治)
- マッピングの作成については、愛知県所有の森林GISのデータが使えると考えられる。(原田)



### ●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ガイドラインは3カ年かけて策定することを予定。参加者の思いを含めて心のあぶり出しを行うことを目的に、「ブレインストーミング方式」でアイデア出しを行う。(今村)
- ガイドラインはストーリーを重視した読み物とすべき。(丹羽)
- 流域圏懇談会のアピールを目的とした流域圏製品を商品化していくことも面白い。(城田)



## ふりかえり



会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。

### よかったことと思うこと

事例集づくりに向けて、調査対象も出てきて、次回までのみんなの結果が楽しみ/流域でつながる情報が得られました

### よくなかったと思うこと

山の百姓が、ほとんどいない場で進められている/課題が煮つまるにつれ、違和感が増している

### 今後取り組んでいきたい活動など

懇談会ウェブサイトを抜本的に改善したい/事例集の第1集を作り上げる事/山村再生担い手づくり事例集作成/流域材利用の方向性

## 今後のスケジュール (予定)



次回のWGを7月20日(土)9時から根羽村老人福祉センターにて開催します。

## ◆情報提供



- いっぺん寄ってみよまいか〜結の炭家でアイターンゆんたく〜：7月17日(水)18時〜宿泊OK
- 森女の森づくり〜林業女子のススメ in 美濃市〜：7月28日(日)9時30分〜16時
- 岡崎のきこり塾 講演会(ぬかた会館)：10月6日(日)13〜17時

